

第2学年 国語科学習指導案

日時 令和2年1月21日(火) 5校時

担任 (T1)

図書担当 (T2)

学校司書 (S)

1 単元名 『おもちゃ教室』をひらこう

教材名 『おもちゃ教室』をひらこう (東京書籍 2年下)

2 単元の目標

○手作りおもちゃの作り方や遊び方を説明する活動に関心を持ち、進んで説明しようとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

○手順に沿って話す事柄を順序立て、聞き手に分かりやすいように工夫して説明することができる。

【話すこと】

○紹介するおもちゃを決めるために、観点に沿ってグループで話し合うことができる。【話すこと】

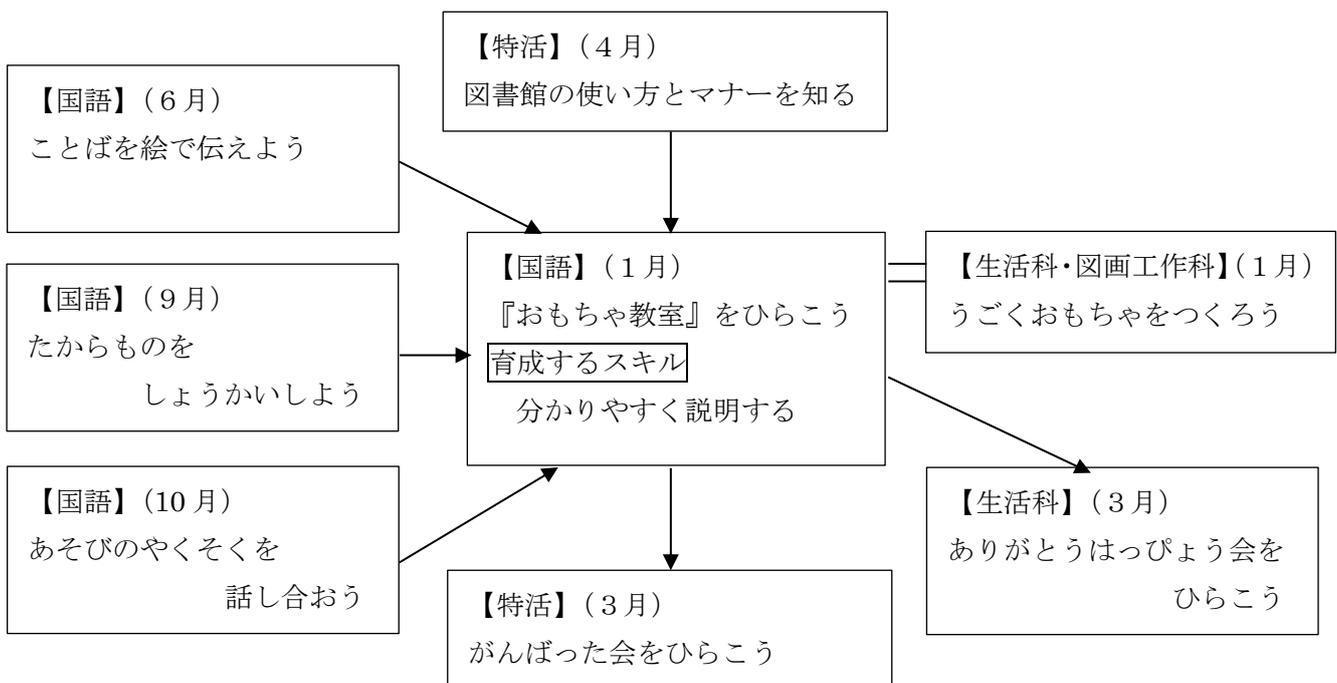
○言葉には内容を表したり伝えたりする働きがあることに気づくことができる。

【言葉の特徴やきまりに関する事項】

3 育成する情報活用スキル

・順序を工夫して、分かりやすく説明する。

4 単元構成モデル



5 基盤

(1) 教材について

本単元は、1年生を対象に『おもちゃ教室』を開くために、紹介したいおもちゃをグループで話し合ったり、作り方や遊び方を対話で説明したりする言語活動を通して、話題に沿って話し合ったり、順序に気をつけて分かりやすく説明したりする力をつけることをねらいとしている。児童は1年生の時に『おもちゃ教室』に招待され、楽しんだ経験がある。よって、自分たちが1年生を招待する側となっても、活動に見通しがもてるとともに、「1年生」という相手意識をもって活動を進めていくことができると考える。1年生に分かりやすく説明するにはどうしたらよいか、どんな工夫をしたらよいかなど、目的を明確にすることで主体的に取り組み、さらに日常生活にも生かせる力をつけていけると期待している。

(2) 児童について（省略）

(3) 指導にあたって

学習を進めるにあたり、あらかじめ3～4人のグループを作っておく。そのグループで話し合いや準備をすることで、児童同士が教え合ったり、助け合ったりしながら、全員が学習に取り組むことができるようにしていく。

導入で、「1年生に『おもちゃ教室』をひらいてあげよう」という学習の見通しをもたせるために、教材文を用いながら、相手や目的を明確にした発表に触れ、児童の学習意欲の継続を図る。

「1年生が楽しむ」「1年生が分かる」説明、準備をしていくことを常に意識させ、そのために既習事項を思い出させたり、教材文の内容から分かりやすく説明するための工夫を読み取らせたりしていきたい。おもちゃの説明には「材料」「作り方」「遊び方」の3つをグループの児童で分担して取り組むようにしていく。

本単元の学習を進めるにあたり、おもちゃ作りに関する図書資料を学級に置き、いつでも児童が手にとって読める環境を作っておく。それにより、おもちゃ作りへの関心を高めるとともに、どのおもちゃがおもしろそうか、作れそうか、教えられそうかなどを児童自身が考えられるようにしておく。また、生活科や図工の学習活動と関連させながら進めることで、自分で調べたおもちゃを実際に作り、遊んでみる経験をしておく。それにより、教える際に気をつけることなど、児童がより意識できるものとする。

本時は、それぞれの児童が調べたおもちゃについてグループで話し合い、どのおもちゃを1年生に紹介するか決める場面である。前時までには、児童は紹介したいおもちゃを本で調べ、そのコピーを用意している。選んだおもちゃのおもしろさなどを用紙に書き込み、それをもとにグループで調べたおもちゃを紹介し合い、一つに絞っていく。その際児童は、自分が調べたおもちゃを作りたいという思いを強くもち、グループで話し合っても決まりにくいことが予想される。そこで、「材料のあつめやすさ」「作りやすさ」「作るのにかかる時間」「作る場所や遊ぶ場所」「おもちゃのおもしろいところ」の5つの観点からなる思考ツールを用いて点数をつける活動を設定する。それにより、『おもちゃ教室』で教えるのにふさわしいおもちゃを決めるための話し合いが、より深まると考える。決まったおもちゃについては、本時の終わりに発表するが、決めることのできなかつたグループに対しても、他のグループからアドバイスをもらう時間を設定するこ

とで、観点を意識した活動となるようにする。

6 単元指導計画（全時間10時間 本時4/10）

次	時	主な学習活動	評価				図書館との 関連	他教科との 関連
			関	話	言	主な評価規準（評価方法）		
一	1	○『おもちゃ教室』を開くことを知り、教材文を参考にしながら、後の活動の見通しをもつ。	○			・おもちゃの作り方を説明するためにどんな情報が必要か、どんな順番がよいかなど、課題を見つけている。（発言、ノート）	・調べるための本をさがす	『うごくおもちゃをつくろう』（生活科・図工）
二	2・3	○手作りおもちゃの情報を集める。		○		・図書館資料から、材料や作り方を調べることができる。（コピー、メモ）		
	4 (本時)	○紹介するおもちゃをグループで話し合っ て決める。		○		・紹介するおもちゃを観 点に沿って話し合っ ている。 (発言、行動観察)		
三	5・6	○おもちゃの材料や作 り方、遊び方をワーク シートに整理して書 く。		○		・説明に必要な事柄を落 とさずに、語と語のつ ながりに注意して書 いている。 (ワークシート)	・調べることをはっ きりさせる ・分かりやすく説明 する	『おもちゃ教室』の じゅんぴをしよう (生活科)
	7	○教材文を読み、分か りやすく説明するた めの言葉の使い方や 話し方の工夫につ いて考える。			○	・分かりやすく説明す るための言葉の使 い方について考 えている。（発言・ 行動観察）		
	8	○分かりやすく説明 するための工夫を考 えながら練習する。		○	○	・分かりやすく説明 するための工夫を 考えながら、グ ループで助言し 合っている。（行 動観察）		
四	9	○『おもちゃ教室』を 開き、相手の様子 をよく見て、工夫 しながら説明す る。		○		・相手の様子を見 ながら、話す 内容や話し方 に気を付けて 説明している。 (行動観察)		『おもちゃ教室』 を開こう(生活 科)
	10.	○『おもちゃ教室』の 実践を振り返り、 分かりやすく説 明する工夫につ いて確かめる。		○		・分かりやすい説 明の仕方に 気づいている。 (ワークシート)		

7 本時の学習(4 / 10)

(1) 目標

- ・1年生に紹介するおもちゃを決めるために、自分が調べてきたことを話したり、観点の書かれたワークシートを用いて点数をつけたりすることを通して、グループで話し合うことができる。

(2) 本時の展開

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援(●T1、◆T2、◇S)と評価(☆)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1年生にしょうかいするおもちゃを話し合っ て決めよう</p> </div> <p>2 話し合いの観点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の集めやすさ ・作りやすさ ・作る時間 ・作る場所と遊ぶ場所 ・おもちゃのおもしろいところ <p>3 話し合いの観点をもとに、グループで話し合う。 「このおもちゃのおもしろいところは○○です。」 「作る時間はよさそうだけど、材料はあつめにく いかもしれないな。」</p> <p>4 グループごとに、決まったおもちゃを発表する。 「わたしたちは、○○を作ることにしました。この おもちゃのおもしろいところは……」</p> <p>5 本時の活動を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>●「おもちゃ教室」計画（掲示）をもと に、本時の活動を確認する。</p> <p>●どのようなおもちゃが「おもちゃ教室」 に向いているのか、児童自身から考えを 出させる時間も設ける。</p> <p>◆観点を黒板に貼ることで、視覚的に確認 できるようにする。</p> <p>●観点を書いたワークシートを配る。 ☆どのおもちゃにするか、グループの中で 話し合うことができる。（行動観察、発 言）</p> <p>●観点に沿った意見が出た場合は、認める 言葉かけをする。</p> <p>◆◇支援を必要とする児童が発言できるよ うに助言する。</p> <p>●おもちゃを決めることができなかったグ ループがあった場合は、どこで困ってい るか発表し、他のグループからアドバイ スをもらうようにする。</p>

(3) 本時の評価

	十分満足できると判断され る児童の具体例	おおむね満足できると判断さ れる児童の具体例	支援を必要とする児童へ の指導の手立て
話す能力	調べたおもちゃを紹介す るとともに、観点に沿って 進んで話したり、友だちの 考えを聞いて質問したり応 答したりすることができる。	調べたおもちゃについて、 おもしろいところや準備する ものなどを話したり、ワーク シートを用いて観点を数値化 したりすることができる。	調べてきたおもちゃの メモや本のコピーをもと に、おもしろいと思っ たところと一緒に確認し、 発表できるように声がけ をする。

(4) 授業研究の視点

話し合いをする際に用いたワークシートは、1年生に紹介するおもちゃを決めるための適切なツ
ールであったか。また、話し合いの観点は適切であったか

8 研究協議の概要

参加者	校内25名 校外4名 計29名
授業及び研究協議の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科や図画工作科とも関連させ、1年生に「おもちゃ教室をひらこう」という単元を設定し授業に取り組んだ。おもちゃ教室を開くための情報収集と同時期に、図書資料から自分でおもちゃを選び、実際に作ったり遊んだりする活動を行った。それにより、児童はより1年生を意識し、分かりやすい説明を心掛けながら学習活動に取り組んだ。 ・グループで一つのおもちゃを決める活動には、「材料の集めやすさ」や「作りやすさ」などを点数化するワークシートを準備し、話し合う手掛かりとさせた。観点に対する点数をつけた理由を進んで話す児童もいるなど、話し合いは積極的に行われ、どのグループも紹介するおもちゃを決めることができた。しかし、中には自分のおもちゃを紹介する前に点数だけつける班も見られた。 ・研究協議では、おもちゃの内容について話し合うだけでなく、国語科として、どのような力が話し合う際に身につけばよいのか、目標（ねらい）を明確にしておかなければならなかった、という話題がのぼった。 ・話し合う際に用いたワークシートは、今後のあらゆる教科等の学習で使えるような資料だった。